

報告事項 セ

鳥取県立図書館開館30周年記念事業の実施について

鳥取県立図書館開館30周年記念事業の実施について、別紙のとおり報告します。

令和2年10月21日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

鳥取県立図書館開館30周年記念事業の実施について

令和2年10月21日

図 書 館

鳥取県立図書館の30周年を記念し、地域の情報基盤としての公共図書館の役割・機能について、県民、図書館関係者、行政担当者が一堂に会し、改めて検証するシンポジウムを開催するとともに、県立図書館30年の歩みを検証する展示等の各種イベントを実施した。

1 開館30周年記念シンポジウム

【1日目】

- (1) 日 時 令和2年10月16日(金) 午前10時30分から午後3時30分まで
- (2) 会 場 鳥取市民会館、北栄町図書館、米子コンベンションセンター(オンライン参加も可)
- (3) 内 容

- ア 記念講演Ⅰ 「変化する時代と図書館の価値～個人の学びと成長を柔軟に支えるために」
在米ジャーナリスト、ハーバード大学財団理事 菅谷 明子 氏
聞き手 鳥取県立図書館情報相談課係長 高橋 真太郎
- イ 記念講演Ⅱ 「公民連携で新しい暮らしを創る～近未来の図書館・公共空間～」
株式会社オガール代表取締役 岡崎 正信 氏
- ウ 事例報告 「Society5.0の時代に向けて、図書館は今」
ジャーナリスト 猪谷 千香 氏

- (4) 参加者数 会場参加78人、オンライン参加365人

(5) 所感

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため初めてのオンライン開催であったが、会場・オンライン参加者の配信共に特に支障なく進行した。
- ・ボストンや岩手県からの著名な講師の講演を、県内外から視聴できるのはリモート開催だからこそできたことである。参加者からも好評であった。

(6) 参加者の感想等

- ・デジタルネットワーク社会の現状をきちんと知り、利用者の利便性を考え、図書館も変わっていかねばいけないと感じた。
- ・紫波町の公民連携の在り方、地域再生論など、まちづくりの重要な役割として図書館を機能的、創造的に使うことができるという話は、県や市町村の施策にも生かせるのではないかと思った。
- ・特徴的な図書館の取組がいろいろ分かり参考になった。地域振興や人材育成にいかに図書館が貢献できるかを実感できた。



【2日目】

- (1) 日 時 令和2年10月17日(土) 午前10時から午後3時20分まで
(2) 会 場 とりぎん文化会館、北栄町図書館、米子コンベンションセンター(オンライン参加も可)
(3) 内 容

- ア 文部科学省行政説明 「これからの図書館行政」
文部科学省総合教育政策局地域学習推進課図書館・学校図書館振興室
専門官 戸田 陽介 氏
- イ 記念講演Ⅲ 「これからの教育が果たすべき役割」
学校法人堀井学園 横浜創英中学・高等学校長、
前千代田区立麹町中学校長 工藤 勇一 氏
- ウ パネルディスカッション 「Society5.0が実現する未来の学校図書館を考える」
コーディネーター 慶應大学名誉教授 糸賀 雅児 氏
パネリスト 学校法人堀井学園 横浜創英中学・高等学校長 工藤 勇一 氏
青山学院大学教育人間科学部教育学科准教授 庭井 史絵 氏
帝京大学教育学部初等教育学科教授 鎌田 和宏 氏
鳥取県立米子東高等学校司書 宇田川 恵理 氏

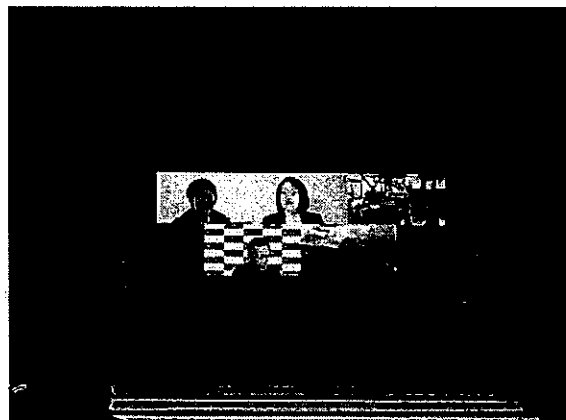
(4) 参加者数 会場参加74人、オンライン参加260人

(5) 所 感

- ・「学校の「当たり前」をやめた」の著者である工藤勇一氏の講演視聴を目的とする参加者が、会場にもオンライン参加にも多かったようである。
- ・午後のパネルディスカッションには、工藤氏も含め、図書館界の著名な講師と共に、米子東高校の宇田川司書も加わり、鳥取県の学校図書館の先進的な取組、Society5.0時代の学校図書館の役割について全国に発信できたのではないかと思います

(6) 参加者の感想等

- ・子どもたちが、自分がどのように生きたいのか、どのような社会をつくりたいのかを描こうとするのを支援する学校教育であるならば、図書館員として子どもたちにできることが見えてきた。
- ・生徒一人一人に対して図書館にできる一番の役割は、自分で考え、自分で決定することができる子どもを育てるということを改めて考え直すきっかけになった。
- ・多様性、時代の変化への対応が必要とされる中で、学校図書館も「子どもの役に立つのか」「学校、家庭、地域、社会の役に立つのか」を問い続けていきたいと思った。



2 開館30周年記念イベント

【トワイライトツアー、アフタヌーンツアー】

- (1) 日 時 令和2年10月10日(土) 午後5時分から6時30分まで
令和2年10月17日(土) 午後4時から5時30分まで
- (2) 会 場 県立図書館
- (3) 内 容 新しい図書館の楽しみ方を提案する体験ツアーとして、BGMを流したり、写真撮影が
できたり、地下書庫も巡る特別な図書館ツアー
- (4) 参加人数 25人
- (5) 所 感
 - ・閲覧室と書庫を案内し、和本、墨塗り教科書、前回の東京オリンピックを特集した『アサヒグラフ』、しかけ絵本、香りのする業界紙『香料』など、たくさんの資料を見ていただくことができた。
 - ・幅広い年齢層の参加者に、それぞれ興味のある資料を楽しんでいただけた。
 - ・消毒室、製本室の裁断機など、普段利用者の眼に触れない設備の見学も好評だった。



【トークイベント 米国公共図書館×鳥取県立図書館】

- (1) 日 時 令和2年10月18日(日) 午後3時30分から5時まで
- (2) 会 場 中庭
- (3) 内 容 当館職員が訪ねたワシントンD.C.とニューヨークの公共図書館について写真や映像で
紹介。これからの図書館のあり方について考える。
- (4) 参加人数 参加者27人、職員休日参加4名、発表者2名、職員業務スタッフ2名、
- (5) 所 感
 - ・熱心に話を聞いてくださる方が多く、意見交換も活発であった。
 - ・利用者との対談形式の参加型イベントは好評であった。
- (6) 参加者の感想等
 - ◎ドキュメンタリー映画を観た後のような、なんとも言えない熱い感情がわきあがりました。
 - ◎意見交換会でも、大変良い内容が知れて、とても参考になりました。
 - ・外国の図書館情報や県立図書館の取り組みが分かりよかった。
 - ・図書館の役割を考えるいい機会になった。



【青空ひと箱古本市】

- (1) 日 時 令和2年10月18日(日) 午前10時から午後3時30分まで
- (2) 会 場 県立図書館
- (3) 内 容 住民のみなさんが店主になって、段ボール一箱分の古本を販売する。本を買ったり、本について話をしたりして楽しむ。
- (4) 参加人数 233人
- (5) 所感

◎県民参加型で本を楽しむイベントは参加者も多く、大変好評だった。

◎県民に古本店主として関わってもらうことで、本を買ったり、次の人に手渡したりという新しい本の楽しみ方を試すことができた。

・図書館として出前図書館を実施しよいPRができた。

・県民と図書館の信頼関係を築く良い機会となった。



3 開館30周年記念資料展示

- (1) 日 時 令和2年10月1日(木)～11月11日(水)まで
- (2) 会 場 県立図書館2階特別資料展示室、1階閲覧室ほか
- (3) 内 容
 - ・特別資料展「県民に役立ち、地域に貢献する図書館ー県立図書館30年のあゆみー」
 - ・利用者からのメッセージ「あなたの想いで染めよう メッセージツリー」
 - ・フォトコンテスト「わたしと鳥取県立図書館」応募作品展示及び来館者による投票
 - ・「図書館クイズ」30周年にちなみ図書館に関連するクイズ30問
- (4) 所 感 当館がこれまでに実施してきた様々な利用者サービスや県内図書館・関係機関とのネットワーク等について、県民に紹介する機会となった。そのほかにも県民参加型の展示等を行い、図書館の魅力を再発見できる企画となった。
- (5) 参加者の感想等 資料展示を見て県立図書館の過去の歴史や果たすべき役割がよくわかった。新たな10年に向かい頑張るより充実した図書館を目指してほしい。

